

「さんべ夢ステージ」

1 趣旨

- (1) 主体的に社会参画を目指す青年がコミュニケーションをキーワードに企画・運営の様々な場面で問題解決・合意形成を繰り返し、対人関係能力や傾聴力等の社会人になったときに必要な資質の向上を図る。
- (2) また、地域の方との関わりから地域の実態を把握し、環境保全に配慮した企画作りを通して、地域貢献を目指す。

2 事業の概要

本事業では、ボランティア活動や企画等に興味・関心のある青年を参加対象に設定している。ボランティア参加者が交流の家近隣にある「三瓶そば」や「三瓶温泉」で有名な志学地域を舞台にしながら、地域のためになるアイデアを企画・運営する。地域の方と連携し、今以上に多くの方が志学の町を訪れるようにするために志学の町の魅力を発信できるようなアイデアを企画し、地域貢献を目指す。

この事業を通して、参加する学生同士が関わり合いながら、コミュニケーションをキーワードに企画運営の様々な場面で問題解決と合意形成を繰り返し、対人関係能力や傾聴力等の社会人になったときに必要な資質の向上を図る。

(1) 期日・期間

- | | | |
|--------|-------------------------|--------|
| ①企画編1 | 令和5年 8月25日(金)～8月27日(日) | (2泊3日) |
| ②企画編2 | 令和5年 9月10日(日) | (日帰り) |
| ③準備編1 | 令和5年 9月30日(土)～10月1日(日) | (1泊2日) |
| ④準備編2 | 令和5年10月28日(土)～10月29日(日) | (1泊2日) |
| ⑤本番編 | 令和5年11月18日(土)～11月19日(日) | (1泊2日) |
| ⑥振り返り編 | 令和5年12月2日(土) | (日帰り) |

(2) ボランティア参加者

全ての回を通じて 5人(法人ボランティア大学生5人) ※募集8人

(3) 協力

志学まちづくりセンター

(4) 講師

リードクライム株式会社 代表取締役 西 直人 氏 (①企画編1のみ)

(5) 主な研修内容

【①企画編1】

1日目	○アイスブレイク ○講義・演習 「コミュニケーション能力について」「ファシリテーター、リーダーシップについて」 「SDGsについて」「企画立案の方法と地域課題の把握のためのヒアリングのポイントについて」
2日目	○志学地域の実態把握のためのフィールドワーク ・地域住民の方からのヒアリングを通じた地域実態調査 ○志学地域ならではの魅力ある体験活動の体験 ・そばうち体験 ・三瓶温泉入浴体験
3日目	○講義・演習 「ブレインストーミングによるアイデア出し」

【②企画編 2】

- アイスブレイク
- 企画アイデア検討

【③準備編 1】

- アイスブレイク
- 話し合いにおけるグラドルール設定
- 企画アイデア決定
 - ・志学地域の魅力発信のための Instagram アカウント「志学という宝箱」開設
 - ・Instagram アカウントを広報するためのポスター作成
 - ・志学地域に訪れた証となるおみやげ開発「シグネチャーポーズステッカー」の作成
 - ・志学地域の魅力を伝える写真集「志学十六景」の発行
- チームに分かれて写真収集
 - 「三瓶山登山チーム」「志学地域自転車チーム」に分かれ、魅力を伝えるための写真を撮影。
 - ・三瓶山
 - ・三瓶温泉
 - ・志学地域の自然、田園風景 など

【④準備編 2】

- アイスブレイク
- 志学地域で行える活動の体験と写真撮影
 - ・グランピング施設見学
 - ・サバイバルゲーム体験
- 企画準備

【⑤本番編】

※当初の予定では、本番編で志学地域の方を招いて活動報告会を開催し、行った企画内容の説明や学生個々の感想、今後の展望を地域の方に伝える予定であったが、企画準備に想定以上に時間を要したことから、活動報告会を振り返り編で行った。

- アイスブレイク
- 写真集作成など企画の進行
- 振り返り編での活動報告会のリハーサル

【⑥振り返り編】

- アイスブレイク
- 地域の方を招いての活動報告会
- 本事業全体の振り返り

3 事業の特色

本事業は、全6回の構成である。今年度は、例年参加者の大半を占める学生が所属する島根大学において宿泊を伴う課外活動制限が撤廃されたことにより、大学生ボランティアの宿泊が可能となったため、8月末から12月にかけて長期的な事業日程を設定することができた。

本事業は、学生がチームとなり、チーム内でのコミュニケーションを図りながら進めていくこととした。学生自らが企画を考案し、その過程で問題解決・合意形成を繰り返していくことで対人関係能力や傾聴力等の社会人になったときに必要な資質の向上を図ることを第一の事業趣旨とし実施した。

(1) プログラムデザインと企画のポイント

○ 大田市三瓶町志学地域を舞台とした地域貢献を目指す自主企画事業

本事業は、当所の近隣にある志学地域と連携して実施した。志学地域は、「三瓶そば」や「三瓶温泉」が有名な地域であり、また、以前は冬になると多くのスキー客が訪れ、古くから賑わいを見せる地域であった。現在は、人口減少が進み、居住する若者が少なくなり、少しずつ以前のような賑わいが薄れてきている。しかしながら、地域の方はとても元気で活力溢れる方ばかりであり、今でも四季に合わせた催しの企画・運営を行い、魅力ある多くの方が地域を盛り上げている。今回は、そのような志学地域を舞台に若

者である学生だからこそその視点を用いた企画を通して、学生による地域貢献ができるのではないかと考えた。また、ふだんの学生生活では関わる機会の少ない他地域の方との交流は、学生のコミュニケーション能力の成長が期待できるのでないかと考え、地域の中で活動していく自主企画事業を設定し、志学まちづくりセンターの協力を得ながら、長期的な活動を地域の方と共に行った。

○ 毎回の目標設定及び事業終了後の振り返りの実施

各回の最初に目標設定、各回終了時に振り返りを行った。個人の目標設定を行うことにより、学生が「何のために活動しているのか」をより具体的に考えながら活動することができた。また、振り返り際には、具体的に「次からどうしていくのか」ということを考え、ワークシートに落とし込むことにより、各回で得られた学びや気付きの自覚化、次への見通しの明確化につながるようにした。振り返りには、職員がコメントを書き込むこと、学生の考えの深まりや広がりを促し、評価を行うことで活動意欲につなげた。

○ 学生が地域での実践活動のポイントを学ぶための講義・演習の場の設定

本事業の趣旨に迫るため、企画編1ではリードクライム株式会社代表取締役（兼東北芸術工科大学准教授）の西直人先生を招へいし、講義・演習を行った。学生たちは、その中で以下の内容について学んだ。

- ① コミュニケーション能力について
- ② ファシリテーター、リーダーシップについて
- ③ 人類が2030年までに達成すべき目標であるSDGsについて
- ④ 企画立案の方法と地域課題の把握のためのヒアリングのポイントについて
- ⑤ブレインストーミングによるアイデア出しの方法について
- ⑥ 企画のメインターゲットをイメージしてのアイデア絞りについて

また、企画編1の2日目には、西先生に同行いただき、地域課題の把握のためのヒアリングポイントを基に志学地域のフィールドワークを行った。西先生から適宜補足やアドバイスをいただくことにより、講義・演習で得られた学びを実践に生かせるようにした。このように西先生の講義・演習を含めた「企画編1」により、学生が企画を考案運営していく上での大事なポイントを常に意識できるようにし、計6回構成の本事業の指針となるようにした。

○ 話し合いをする上でのグランドルールの設定

企画内容が決定し、企画実施に向けて話し合いを進めていく段階において、チームで大事にしたいコミュニケーション能力の視点を意識しながら活動できるようにするため、話し合いのグランドルールの学生自らが協議、設定する場を設けた。準備編1までの活動で感じた自分たちの良さや課題に目を向けながら、今後の話し合いをどのように進めていきたいかを考え、チームとして目指したい姿をより具体的にイメージできるようにした。そして、学生は、「否定はしないが、批判的に捉えて、思ったことは言おう！」をグランドルールとして設定した。

○ 当所のボランティア育成ビジョンを踏まえたボランティア参加者支援

当所では、「ボランティア育成ビジョン」において「また参加したい」「自分にとってプラス」という気持ちを育むことをボランティア育成のポイントに掲げ、ボランティアが継続して活動できることを目指している。当所に来る学生ボランティアの声を聞いてみると、「楽しいと感じるボランティアに取り組んでみたい。」という声を多く聞く。本事業は、長期活動であるため、学生のモチベーションが途切れないように学生が取り組みたいことを積極的に取り入れながら企画準備を進めていくようにした。

また、志学地域の方のためにという目的意識を常に念頭に入れて活動できるよう声掛けをした。誰かのために何かができたとときの実感は、今後のボランティア活動に大いに生かされると捉え、学生の「また参加したい」という気持ちにつながると考えたためである。

○ 振り返りの実施

振り返り編では、「さんべ夢ステージを通じて学んだこと・気付いたこと」「今回の経験を今後どう生かすか」「今回見つかった新たな課題を解決していくためにどうしていくか」の3点について、グループで協議して活動を振り返ることにより、今までの個々の学びや気付きだけでなく他の学生の学びも共有し、更に学びを深められるようにした。

○ 運営のポイント

担当職員は、基本的に「見守る」というスタンスで運営を行った。しかし、安全を確保するとき、学生にアドバイス等を求められたときその他担当職員が必要であると感じたときは、介入するようにした。

本事業は、志学まちづくりセンターに協力いただいていた。学生が考案した企画内容の相談や作成した成果物のチェックをまちづくりセンターの方が行い、全面的なサポートの下、本事業の運営を行った。

4 ボランティア参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) ボランティア参加者の振り返りアンケートでの記述

① 今回の事業を通して学んだことは何ですか？

- ・メンバー5人の意見を基に一つの企画を考える上で、5人の意見を照らし合わせながら話し合いを進めることで柔軟に考えられるようになった。
- ・自分が考えたことを口に出して言うことの大切さを学び、積極的に発言することの意識が高まった。
- ・相手の意見を聞いて、きちんとそれに賛成や反対の意見を述べることができた。また、自分の主張には理由を述べることの大切を改めて感じる事ができた。
- ・地域の方と関わり、様々な話を聞く中で、傾聴力を鍛えることができた。
- ・地域の方との関わりを通して、地域の方の温かさを感じるとともに、その気持ちに応える責任の重さ、信頼を築く大切さを学んだ。
- ・計画的に物事を考える計画性の大切さ何から手を付けるべきか考えるなど段取りよく取り組むことができるようになった。
- ・明確な目的と目標を持ちながら取り組むことが大切であると学んだ。
- ・全員をターゲットとした企画を作ることが難しいということがよく分かった。ターゲットを絞った上で課題を見付け、どうしていくかビジョンを持つことが企画づくりでは大事であると学んだ。

② 今回の経験を今後はどう生かしていきますか？

- ・計画性の大切さを学ぶことができたため、大学での課題に取り組む際や社会に出て仕事をする際の計画立てに生かしたい。
- ・将来、自分の地元でも地域貢献をしたいと考える。今回の経験を基に企画づくりを行っていきたい。自分自身の将来の選択肢が広がった。
- ・今回の経験を生かして、日頃の大学の講義からコミュニケーション能力に着目し、自分の課題に目を向けながら発展的な話し合いを目指していきたい。
- ・目上の方や社会の場での大人の方と場に適したコミュニケーションを図ることを意識して良い関係性を構築していきたい。

③ 今回の事業を通して見付かった課題及びその課題を解決するためにこれからどうしていきたいですか？

- ・計画的に準備を行えていないこともあった。ギリギリになって取り組むのではなく、早い段階から取り組んで期限を守れるようにしたい。
- ・これから様々な経験をすることができるように主体的に多くのイベントや企画に参加したり本を読んだりして、知見・知識を増やしていきたい。

④ 自由記述

- ・志学の方の温かさに心動かされた。
- ・チームのメンバーの仲を深めることができた。

5 成果と課題

《成果》

- 外部講師の講義・演習での学びを基に実践しようとする参加者の姿が多く見られたこと。
- ・外部講師による講義・演習を通して、学生が事業趣旨であるコミュニケーションの資質能力向上の基盤

となる「コミュニケーションのポイント」を意識した活動をすることができた。

- ・学生が設定した話し合いにおけるグラドルール「否定はしないが、批判的に捉えて、思ったことは言おう！」から分かるように、相手の考えを真っ向から否定するのではなく、考えを受け止めながら話を膨らませる意識をもち、かつ、批判的に思考しようとする姿が見られた。
- ・今回の講義・演習では、ふだんの学生生活では聞けない「企画立案の方法」「ヒアリングのポイント」などを聞くことができた。学生からの振り返りでは、「企画の作り方を学ぶことができた。」「企画を考えるときは、メインターゲットを考えることがとても重要であることが分かった。」という発言やアンケート記述があった。このことから、企画づくりについて学んだ内容は、志学地域をより活気付けるための企画運営を行うという本事業に適した学びであったと言える。

○ 地域の方と連携し、「地域の方のために」という目的をもって自主企画事業を実施できたこと。

- ・「志学地域の方の温かさに触れることができた。」「志学地域の方の気持ちに応える責任の重さ、信頼を築く大切さを学んだ。」という振り返りから分かるように、ふだんの生活では出会えないような地域人材との関わりは、学生にとって価値ある経験となったといえる。活動報告会の最後には、発表した企画について学生と地域の方が積極的に意見を交わす姿も見られた。ふだん関わり合うことが少ない立場の違う人たちが同じ目標に向かって取り組んでいく機会を作ることができた。
- ・また、「目上の方や大人の方と場に適したコミュニケーションを図ることを意識して良い関係性を構築していきたい。」というアンケート記述から、地域の方との交流を通して学生自身のコミュニケーション能力が向上しているといえる。

《課題》

● 地域課題に目を向けた地域貢献型の活動の見通しが甘かったこと。

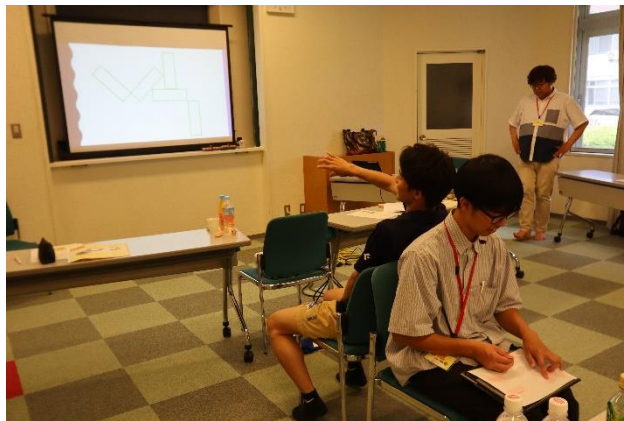
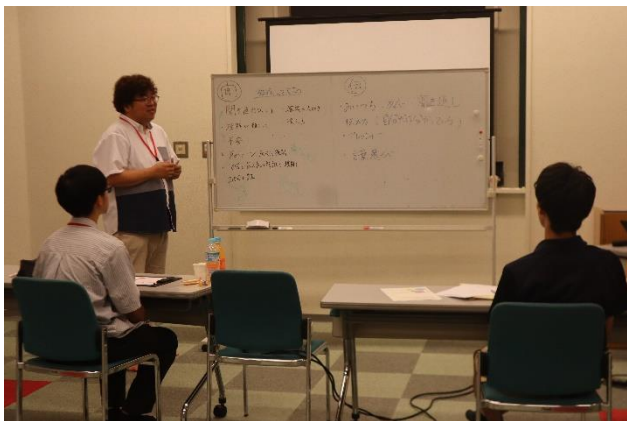
- ・外部講師の西直人先生から、「このような地域課題に目を向けた地域貢献型の活動を行うためには、多くの月日を重ねながらじっくり地域課題を見いだす必要がある。」と指摘いただいた。外部からきた学生が長くその地域に住む方のために活動するに当たっては、的が外れた企画にならないために相当の時間が必要であるが、本事業の設定時間は短かったと感じる。次回以降、このような地域貢献型の活動を行うときは、時間をかけて地域の方と密な信頼関係を構築するとともに、地域課題を見いだしていく必要がある。

● 参加人数が定員8人のところ5人であったこと。

- ・5人の学生が参加したが、8人の定員に達することができなかった。コロナ禍前に実施した「さんべ夢ステージ」には、多くの島根大学教育学部の学生が参加していた。島根大学の学生は、コロナ禍の影響で宿泊での活動ができなかったが、令和5年6月から宿泊での活動ができるようになった。今年度は、それにもかかわらず、参加者数が伸び悩んだ。コロナ禍前に多くいた「さんべ夢ステージ」を経験した学生が大学を卒業し、先輩からの話を聞けないことなどから、事業のイメージをもてない学生が多くなったことが起因しているのではないかと考える。
- ・今回は、8月末から12月上旬までの長期に渡る活動であったことから、負担を感じた学生がいたのではないかと考える。「さんべ夢ステージ」に限らず、当所のボランティア事業の内容を見直し、学生がより気軽にボランティア活動に参加できる事業内容にする必要がある。

活動の様子

企画編1 西直人先生による講義



企画編1 志学地域でのフィールドワーク



企画編1 志学地域ならではの魅力ある体験活動 そばうち体験



企画編1 地域の方へのヒアリング



企画編 2～本番編 企画考案、企画準備



企画編 2～本番編 志学の魅力あるスポットを伝えるための写真撮影



振り返り編 活動報告会



左図：学生が作成したシグネチャーポーズステッカーと写真集「志学十六景」

右図：学生が作成したシグネチャーポーズステッカーのお知らせ掲示と Instagram アカウントを広報するためのポスター



(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)